

2017年8月6日

福音書からのメッセージ

その声がしたとき、そこにはイエスだけがおられた。弟子たちは沈黙を守り、見たことを当時だれにも話さなかった。

(ルカによる福音書 9章 36節)

毎年8月6日、聖公会では「主イエス変容の日」をおぼえてお祈りします。変容とはイエス様の姿が山の上で変わり、イエス様が神の子であるということが啓示された出来事です。

ペトロとヤコブとヨハネの三人の弟子たちは、イエス様と共に山に登り、その様子を間近に見ます。そして栄光に包まれるイエス様を見たときに、もうこの場から離れたくないと思ったことでしょうか。わたしたちはどうでしょうか。もし今、光り輝くイエス様が目の前に現れたとしたらどうするのでしょうか。イエス様の弟子ペトロは、イエス様にこのような提案をします。

「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。」

彼はどうしてこのようなことを言ったのでしょうか。わたしには少し分かるような気がします。この喜びのときを終わらせたくなかった。いつまでも栄光に包まれたイエス様のそばにいたかった。少しきつい言い方をすれば、「恵みを独り占めしたかった」とも考えられます。

イエス様は彼ら三人の弟子たちだけを、山に連れていきます。他の九人の弟子たちは麓に残されたままです。自分たちは特別だという気持ちはなかったのでしょうか。また群衆も、山についてくることは許されませんでした。ペトロたちに、自分たちは選



ばれた者だ
という思い
があっても
不思議では
ありません。

しかしイエス様は、山を下ります。それは彼の栄光を本当に必要としている人は、麓にいるからなのです。もしイエス様が山にとどまったままだったら、誰が自分の力だけでイエス様の元にたどり着くことができるのでしょうか。すべてを捨てて、イエス様がいる場所にまで到達しなければ救われないとしたら、誰一人、その恵みにあずかることなどできないのです。

イエス様は誰のために来られたのか。それは自分の力で歩くことのできない人のためです。どこにイエス様がいるのか、まったくわからない人のためです。神さまに背を向け、もがき続けている人のためです。イエス様はその人たちに手を伸ばし、共に歩んでくださるのです。

もしあなたがすでにイエス様に出会っているならば、祈りましょう。「どうかわたし以外のところにも、イエス様、行って下さい。隣に今、悲しんでいる人がいます。苦しみの中にある人がこんなにもいます。どうかその人と共にいて下さい」と。イエス様は必ず、すべての人に神さまの愛を届けてくださいます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>